

【西予市復興まちづくり計画】

復興のパズル みんなでつくる 未来のカタチ

のむら復興まちづくり計画

令和2年3月

のむら復興まちづくりデザインワークショップ

目次

はじめに.....	1
1. 計画の役割・性格等.....	2
(1) 西予市復興まちづくり計画における「野村地区の復興方針」に基づく計画.....	2
(2) 市民の視点で作った計画.....	3
2. 計画検討の基本的な考え方.....	4
(1) 新たな魅力あるまちづくりを進める.....	4
(2) 話し合いを深めながら、市民の視点でまちづくりを描く.....	4
(3) 災害に強いまちづくりを実現する.....	4
3. のむら復興まちづくりのめざすべき姿.....	5
(1) のむら復興まちづくりの目標.....	5
(2) のむら復興まちづくりの体系.....	6
4. のむら復興まちづくり.....	7
(1) 肱川と共に生きる.....	7
1-1 肱川の河川改修.....	7
1-2 河川沿いの魅力ある空間整備.....	8
① 河川沿いの空間整備.....	8
② 温浴施設の整備検討.....	11
③ 酒蔵の利用・活用.....	11
1-3 避難体制の強化.....	12
① 避難路の整備、指定避難所の充実等.....	12
② 市民一人ひとりの防災意識の向上.....	13
(2) 野村の住民だけでなく、地域外からも野村に来たくなるような商店街を創る.....	14
2-1 魅力ある店舗・商品の創出、PR強化.....	14
① 新たな店舗の誘致.....	14
② 野村の特産品の開発と情報発信の強化.....	15
2-2 憩い・集い、周遊を促す空間整備.....	16
① 空地等を活用したスポット整備.....	16
② 商店街の周遊を促す工夫.....	16
2-3 若者のチャレンジ等の支援.....	17
① 空家・空き店舗等の活用.....	17
② 中高生と商店街の連携.....	17
(3) 「相撲文化」や「飲む村、のむら」等の野村の文化を守る.....	18
3-1 のむらブランドの継承と情報発信の強化.....	18
① 「相撲文化」のPR強化等.....	18
② 「飲む村、のむら」の継承.....	18
3-2 のむらの文化を伝える仕組みの構築.....	19

3-3	のむらならではの魅力を活かし来訪者を呼び込む	19
①	野村の魅力のPR	19
②	新たな魅力の創出	19
③	宿泊施設等の整備	20
(4)	地域で支え合い、市民一人ひとりが活躍するまちを創る	21
4-1	のむらの生活、文化を守るための移動手段の確保	21
①	地域で支える公共交通のあり方の検討	21
②	地域による買物支援等の取組	21
4-2	若者等の定住を促すための条件整備	22
①	雇用の場の確保	22
②	住みやすく、魅力的なまちづくり	22
5.	計画の推進に向けて	23
(1)	協働（総働）による推進	23
(2)	費用負担に配慮した施設整備	23
(3)	継続した話し合いの場の確保	23
参考		24
(1)	のむら復興まちづくりデザインワークショップの開催経緯	24
(2)	のむら復興まちづくりデザインワークショップ参加者（第1回～第6回）	25
(3)	のむら復興まちづくりデザインワークショップ支援者	26

別冊 のむら復興まちづくりデザインワークショップの結果

はじめに

- ・野村町野村地区は、平成30年7月豪雨災害にて5名の死者、919件の建物被害を出すなど、甚大な人的・物的被害が発生しました。
- ・災害を乗り越え、誇りを持てる西予市をめざすため、平成31年3月に「西予市復興まちづくり計画」が策定されました。
- ・その計画の中で、野村地区の復興方針の一つとして「市民、行政、学識者等との協働（総働）による未来へ飛躍する復興の実現」が掲げられ、地域の発展につながる復興まちづくりのあり方について、住民と行政、大学等が共にアイデアを出し合う場（ワークショップ）を設け、野村地区の将来像を描いていくことが位置付けられています。
- ・その具体化の取組として、愛媛大学・東京大学の協力を得ながら「のむら復興まちづくりデザインワークショップ」を6回開催し、市民の視点で野村地区の将来像等について話し合いを進めてきました。
- ・本計画は、その話し合いの結果について「のむら復興まちづくり計画」としてとりまとめたものです。

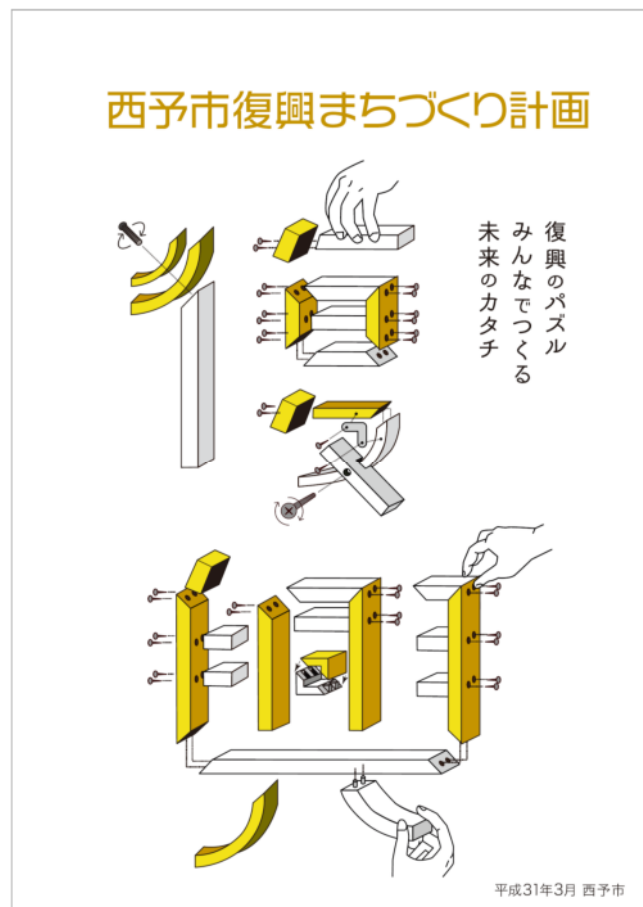


図 西予市復興まちづくり計画

1. 計画の役割・性格等

(1) 西予市復興まちづくり計画における「野村地区の復興方針」に基づく計画

「西予市復興まちづくり計画」(平成31年3月)では、野村地区の復興方針として、以下の4点が掲げられています。

- ①生活の基盤となる安心・安全なまちづくり
- ②安心・安全に暮らせる住まいの早期確保
- ③市民、行政、学識者等との協働(総働)による未来へ飛躍する復興の実現
- ④人と人のつながりを活かし復興の輪を広げる

この「のむら復興まちづくり計画」は、「③市民、行政、学識者等との協働(総働)による未来へ飛躍する復興の実現」の具体的な取組みの第一歩となるものです。

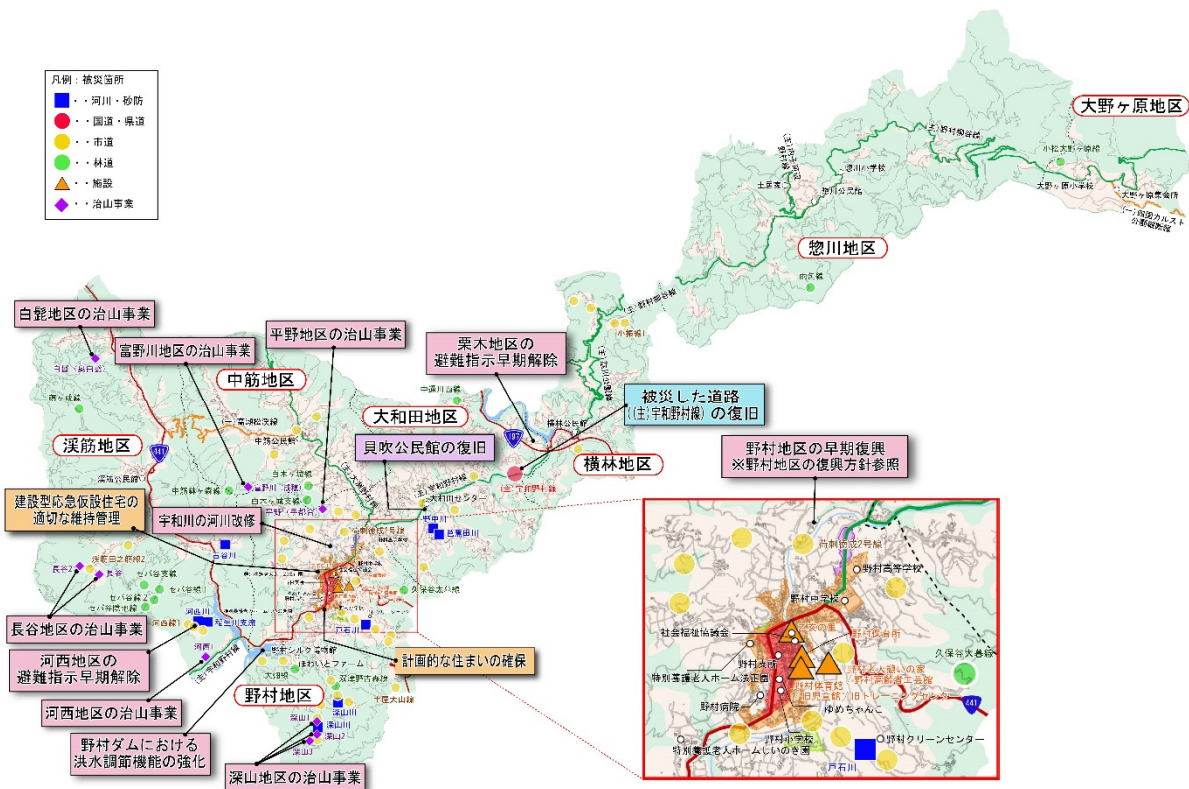


図 野村地区の復興方針図

(2) 市民の視点で作上げた計画

本計画は、愛媛大学・東京大学の協力のもと、野村地区内自治会や各種団体等の代表者、公募による市民、野村高校の生徒が参加した「のむら復興まちづくりデザインワークショップ」を開催し、検討してきました。

野村に住む地域の人たちが描いた、野村の将来像を形にしたものであり、“夢”や“理想”の姿を語っている部分もありますが、『これまでののむら』を守り、『新しいのむら』を創り出す計画』となっています。

本計画を進めていくには、誰が、いつ、どのように進めていくかが重要になります。地域住民や各種団体、行政等が、それぞれの立場で出来ることを模索し、より良いのむらの実現に向けた道標となる役割を担う計画となります。



図 ワークショップの開催状況

2. 計画検討の基本的な考え方

「のむら復興まちづくり」の検討においては、以下の3つを基本的な考え方として、平成30年7月豪雨災害からの復旧・復興を進める中で、更なる飛躍をめざした魅力的なまちづくりをめざすものとして検討を行ってきました。

(1) 新たな魅力あるまちづくりを進める

- ・平成30年7月豪雨災害による被害から、被災者の日常生活を取り戻すことはもちろんのこと、まちを元通りにするだけでなく、活力や潤い、楽しみ等のあふれる、新たな魅力あるまちづくりをめざすものとしします。

(2) 話し合いを深めながら、市民の視点でまちづくりを描く

- ・まちづくりの主役は、市民一人ひとりであるとの認識のもと、一人ひとりが夢を描き、その実現に向けて地域で合意を図りながら取組んでいくものとしします。

(3) 災害に強いまちづくりを実現する

- ・市民の安心・安全な生活の基礎となる「災害に強いまちづくり」の実現に向け、行政や関係機関等に対して、その条件整備を要望していくとともに、市民一人ひとりの防災意識を高めていくものとしします。

3. のむら復興まちづくりのめざすべき姿

(1) のむら復興まちづくりの目標

「のむら復興まちづくりデザインワークショップ」では、「野村で残したい思い出」を守る（取り戻す）とともに、「野村で実現したい暮らし」に向けた歩みを進めるため、以下の4つのテーマを掲げて話し合いを行ってきました。

「のむら復興まちづくりデザインワークショップ」での意見等を踏まえて、それぞれのテーマから、のむら復興まちづくりの目標像を以下のように定めます。

テーマ① 肱川とその周辺の整備・活用

☐ 肱川と共に生きる

テーマ② 商店街の活性化

☐ 野村の住民だけでなく、地域外からも野村に来たくなるような商店街を創る

テーマ③ 野村の文化の継承と観光

☐ 「相撲文化」や「飲む村、のむら」等の野村の文化を守る

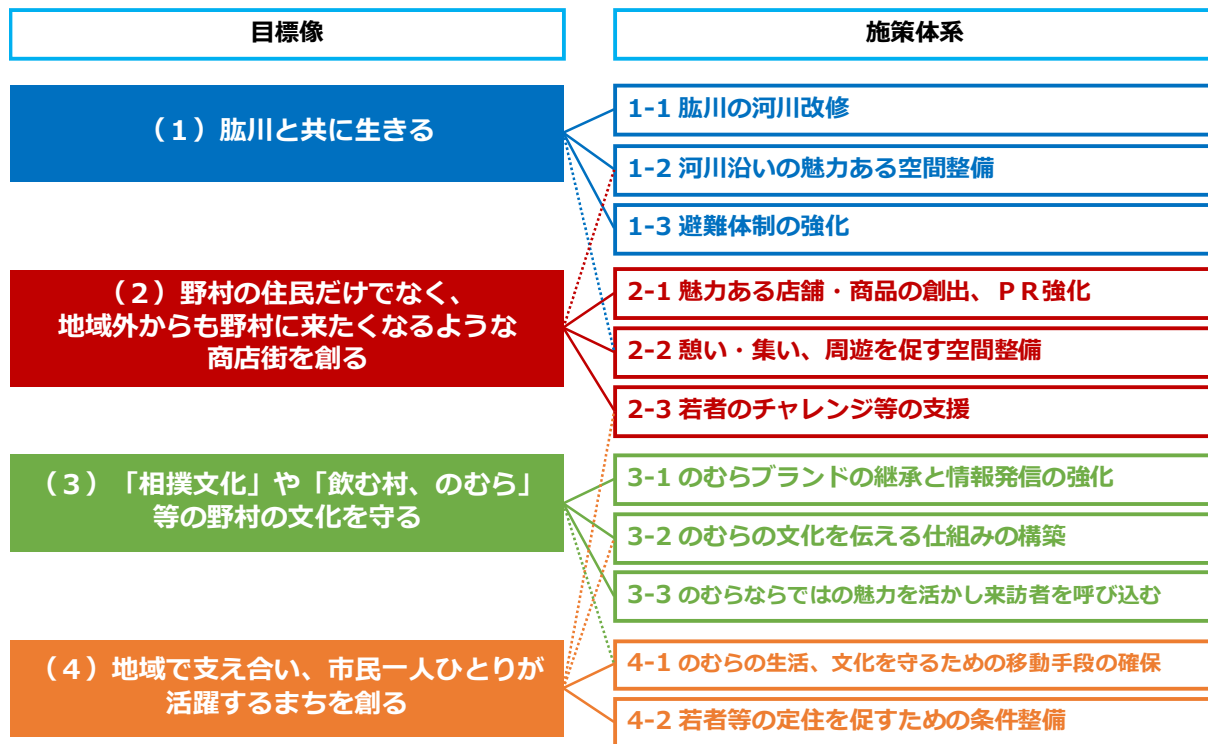
テーマ④ 日常生活サービスの維持・更新

☐ 地域で支え合い、市民一人ひとりが活躍するまちを創る

なお、これらのテーマ・目標は、互いに関連性を持って取り組むべき事項であり、個々のテーマ・目標の取組を進めることで、他のテーマ・目標に対しても相乗効果や波及効果を発揮するものです。

(2) のむら復興まちづくりの体系

のむら復興まちづくりの施策体系は、以下のように設定します。



4. のむら復興まちづくり

(1) 肱川と共に生きる

- ・過去の、魚釣りや水遊び等で親しみのあった肱川（宇和川）のような、親しみや潤いのある河川空間を創ります。

1-1 肱川の河川改修

- ・国土交通省四国地方整備局及び愛媛県が公表した「肱川水系河川整備計画【中下流圏域】」（令和元年12月）に基づく河川整備の早期実現を要望していきます。

【WSでの主な意見】

- 安心・安全の確保が検討の前提となる。
- 河川整備が決まらないと、周辺整備も進まない。等

肱川水系河川整備計画変更原案(修正)のポイント

つながる肱川

【ポイント】

西予市野村地区の区間は、下記のとおり河川工事の内容を修正し、より安全で親しみやすい河川改修を目指します！

- ① 野村大橋については、延伸から架替に変更します。
- ② 三島橋付近から上流については、特殊堤から引堤に変更します。
- ③ 河道掘削の範囲を変更します。



	主な役割(案)
住民、地域等	・河川整備への参画
西予市	・河川整備の推進に向けた関係機関との調整 ・河川沿いの空間整備との調整
国、県	・河川整備の推進

1-2 河川沿いの魅力ある空間整備

① 河川沿いの空間整備

・河川改修を踏まえつつ、「のむら復興まちづくりデザインワークショップ」で議論を進めてきた、河川沿いにおける魅力的で地区の特性を活かした空間整備に取り組めます。

【WSでの主な意見】

- 商店街と乙亥・まちなかエリアを結ぶ仕組みを考える。
- 平成30年7月豪雨時の浸水区域となっており、安全への配慮が必要
- 平成30年7月豪雨時の最大浸水深がわかる標識等の整備
- 3on3などのスポーツが楽しめる場所
- 浸水の危険性があることから遊水地となる空間とする 等



	主な役割 (案)
住民、地域等	・ゾーンごとの整備方針 (案) 整備案の実現に向けた民間施設等の整備 ・維持管理への参画
西予市	・ゾーンごとの整備方針 (案) 整備案の実現に向けたハード整備
国、県	・ゾーンごとの整備方針 (案) 整備案の実現に向けたハード整備

■ゾーンごとの整備方針（案）

【乙亥・まちなかエリア】

- ・計画地の拠点として、乙亥会館の充実や商店街と一体となった空間の整備等をめざす。

【WSでの主な意見】

- 計画地の中心となるエリアであり“野村ならではの”温泉を整備する
 - 商店を再開、新規開業した人を始め、商店街を支えるために、人が自然に訪れる仕組みを考える
- 等



【自然と憩いのエリア】

- ・肱川と氏宮川の合流地点に親水空間の形成を図るとともに、多目的に活用できる空間の整備等をめざす。

【WSでの主な意見】

- 「ここまで浸水した」といった石碑やモニュメント等をつくる
 - 洪水の際に、避難できる施設を安全な場所に確保する
 - 利用者が管理するような仕組みも検討する
- 等

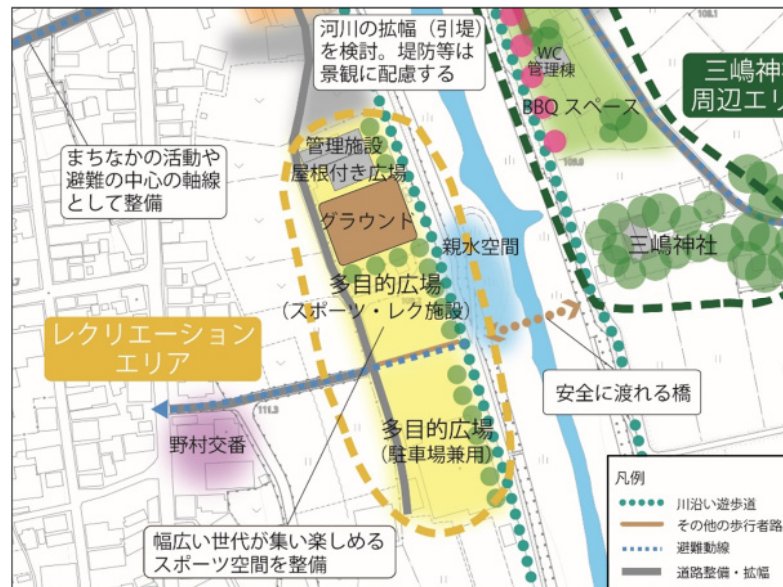


【レクリエーションエリア】

- ・幅広い世代が集い・楽しめるスポーツ空間の形成を図るとともに、イベント時の駐車場等として利用可能な空間の確保等をめざす。

【WSでの主な意見】

- 管理施設は垂直避難が可能な高さにする
- 3on3などのスポーツが楽しめる場所にする 等



【三嶋神社周辺エリア】

- ・バーベキュー等の様々な住民ニーズに対応可能な空間の確保等をめざす。

【WSでの主な意見】

- 野村高校の教育ファームの取組みを行う場所とする 等



② 温浴施設の整備検討

- ・被災したカロト温泉は、地域住民にとって憩いの場となっていたことから、地域のコミュニティ形成や高齢者等の健康増進、避難所としての利用、河川沿いに整備する施設の利用促進等に寄与する施設として、再整備に向けた検討を進めます。
- ・なお、温浴施設の整備、運営には、費用負担が大きいことから、民間資本の活用や地域が経営を支える仕組みづくり等を検討します。

【WSでの主な意見】

- 地域住民による負担金、地域住民が株主になる
- 野村ダムで発電した電力の活用
- お酒が入ったお風呂、ミルクの入ったお風呂など、野村らしい特徴を出す
- 集会所等での小規模な温浴施設を整備する
- 公営発電所の検討 等

	主な役割（案）
住民、地域等	・温浴施設の運営への参画、地域で支える運営のあり方の検討 ・民間資本による整備可能性の検討
西予市	・温浴施設の実現可能性の検討
国、県	・温浴施設の実現に向けた協力（補助メニューの検討等）

③ 酒蔵の利用・活用

- ・被災した酒蔵等の「飲む村、のむら」の象徴となる施設について、所有者の協力をいただきながら、活用方策等の検討を進めます。

【WSでの主な意見】

- お酒とスイーツ、デザート等を楽しめる空間
- ビアガーデン
- ジャズなどの音楽を楽しめる場、文化的なイベント会場としての活用
- インスタ映えする空間
- ひろめ市場のような気軽に、いろいろな食を楽しめるように 等

	主な役割（案）
住民、地域等	・酒蔵の活用に向けた検討 ・民間資本による整備可能性の検討
西予市	・酒蔵の活用に向けた検討
国、県	・活用に向けた協力（補助メニューの検討等）

1-3 避難体制の強化

① 避難路の整備、指定避難所の充実等

- ・ 右岸側の住民は右岸側（野村中学校等）へ、左岸側の住民は左岸側（野村公民館等）へ速やかな避難を実現するため、地域内で避難のルールを検討するとともに、避難路等の条件整備に取り組めます。
- ・ 指定避難所への避難の抵抗感を低減し、避難したくなる避難所の実現に向け、避難所の質的向上（余裕のあるスペース、備蓄の充実等）等に取り組めます。
- ・ 河川沿いの空間整備の利用者に対して、速やかな避難情報やダムの状況等を提供できるような施設（防災行政無線の屋外スピーカー等）、緊急避難場所・避難所の案内標識等の整備等に取り組めます。
- ・ 避難路等の条件整備とあわせて、市民一人ひとりの避難行動をサポートします。

【WSでの主な意見】

- 避難したくなる施設（避難所）を確保する
- 右岸の人は右岸側で、左岸の人は左岸側で避難できるような条件整備とルールづくり
- 災害の種類によって避難行動が変わることへの理解を深める 等

	主な役割（案）
住民、地域等	・ 地区における避難のルールの検討
西予市	・ 避難路や情報伝達手段等の整備 ・ 緊急避難場所・避難所への案内標識等の整備
国、県	・ 避難路や情報伝達手段等の整備 ・ 災害リスクに関する情報の提供

② 市民一人ひとりの防災意識の向上

- ・「自らの命は、自らが守る」という自助を基本に、学校教育・社会教育等の様々な機会を通じて、市民の防災意識の向上を図ります。
- ・地域の避難行動要支援者等の適切な把握を行い、災害時における地域の支え合い体制の構築に取り組めます。
- ・市民や来訪者に対して、平成30年7月豪雨災害を伝えていくために、乙亥会館での情報発信等に取り組めます。

【WSでの主な意見】

- 地域で見守り隊を作る（常日頃からの見守り、災害時の避難体制の強化）
- 豪雨の際は「早目の避難が大事」ということを、住民一人ひとりが意識する
- 災害遺構としての被災建物等の保存を検討する 等

	主な役割（案）
住民、地域等	・自らの防災意識を高める ・自主防災組織の活動への参加、避難訓練への参加等
西予市	・避難ルートや情報伝達手段等の整備 ・様々な機会を通して、防災意識の高揚 ・乙亥会館での災害記録伝承室の整備
国、県	・避難ルートや情報伝達手段等の整備 ・災害リスクに関する情報の提供

(2) 野村の住民だけでなく、地域外からも野村に来たくなるような商店街を創る

- ・商店街の再建を図るとともに、巡って楽しめる商店街の形成をめざします。

2-1 魅力ある店舗・商品の創出、PR強化

① 新たな店舗の誘致

- ・若者から高齢者まで、それぞれの買物等のニーズに応えられるよう、既存店舗の支援や多様な店舗の誘致等に取り組めます。
- ・昼はカフェ、夜は居酒屋など、異なる業態を組み合わせた事業形態の導入や、出店者の負担軽減につながる仕組みの構築、出店しやすい条件整備等の支援策を検討します。

【WSでの主な意見】

- 店が増えることで商店街の魅力を高める
- 若者向けの店の誘致が重要 等

	主な役割 (案)
住民、地域等	・自ら出店 ・商工会等による相談体制の充実
西予市	・誘致に対する支援策の充実 ・野村町内・市内・県内・全国への効果的なPR
国、県	・既存店舗や誘致に向けた支援 (補助メニューの検討等)

② 野村の特産品の開発と情報発信の強化

- ・既存の食（巻きようかん、ちゃんぽん、ブランド牛等）の情報発信を図るとともに、「シルクとミルクのまち」といった野村のイメージを活かした新たな特産品の開発等に取り組めます。

【WSでの主な意見】

- 専門家等からのアドバイス（商品開発、売り方等）
- シルクのまちのイメージを活かして、食べるカイコの開発、桑の実の収穫体験&食の提供
- 獣肉処理加工施設を活かしたジビエ料理の開発
- ブラックバスを活かした料理の提供
- 牛肉・ジビエ等の食と河川沿いの空間を活かし、バーベキューや肉フェスなどの取り組み
- 観光協会や市におけるネットショッピングなどの取り組み 等

	主な役割（案）
住民、地域等	・特産品開発等への参画 ・商工会等による相談体制の充実
西予市	・特産品開発に対する支援策の充実 ・地域の取組に対する専門家等の講師派遣等の支援 ・野村町内・市内・県内・全国への効果的なPR
国、県	・各種取組に向けた支援（補助メニューの検討等）

2-2 憩い・集い、周遊を促す空間整備

① 空地等を活用したスポット整備

- ・空地等を利用した休憩施設（ベンチ、木陰等を確保）の整備等を図り、商店街の散策やコミュニティ活動の場等としての活用を促します。
- ・空地等を活用して、まちなかに駐車場や駐輪場を確保し、歩いて回ることのできる商店街をめざします。

【WSでの主な意見】

- 広場に土俵を整備して相撲文化をPR
- まちなかでお茶や囲碁を楽しめる空間を整備
- 気軽に集まれる、避難場所としても活用できる空間 等

	主な役割（案）
住民、地域等	<ul style="list-style-type: none"> ・空地等の情報収集や地権者等への協力要請等への協力 ・空地等の具体的な活用策の検討への参画 ・広場等の維持管理への協力
西予市	<ul style="list-style-type: none"> ・空地等の情報整理 ・空地等の活用に向けたスポット整備
国、県	<ul style="list-style-type: none"> ・各種整備に向けた支援（補助メニューの検討等）

② 商店街の周遊を促す工夫

- ・商店街と河川沿いの空間整備の連携を高める工夫を検討します。
- ・ポイントカード（西予市全体で考える）やスタンプラリーなど、地域内外の人が商店街を訪れる仕組みを検討します。

【WSでの主な意見】

- 1箇所で買い物を済ませられるような複合施設を備えた、高齢者や子育て世代にやさしい商店街
- 西予市内商店街で買い物をすることに対する特典 等

	主な役割（案）
住民、地域等	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街や商工会団体等におけるソフト対策（イベント等）の検討 ・商店街や野村町内での積極的な買物 ・複合施設の整備の際の出店
西予市	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント等の開催支援
国、県	

2-3 若者のチャレンジ等の支援

① 空家・空き店舗等の活用

- ・空家・空き店舗等の改修を行い、若者によるチャレンジショップ等、新たな店舗の誘致に取り組めます。

② 中高生と商店街の連携

- ・地域の中高生が商店街で働く機会（職場体験、アルバイト体験等）を設けるなどにより、商店街等のにぎわい創出を図ります。
- ・野村高校のマイプロジェクト（自分の好き×地域課題の組合せ）の一つとして、高校生カフェの実現に向けた地域ぐるみの取組みを検討します。

【WSでの主な意見】

- ▶ 若者が働くことでにぎわい創出につなげる 等



図 野村高校の生徒が想う復興まちづくり提案

	主な役割（案）
住民、地域等	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら出店や特産品開発等に参画 ・商店街における中高生の受入体制、支援体制の構築 ・商工会等による相談体制の充実
西予市	<ul style="list-style-type: none"> ・空家・空き店舗等の情報整理 ・空家・空き店舗等の改修の支援
国、県	

(3) 「相撲文化」や「飲む村、のむら」等の野村の文化を守る

- ・野村ならではの「相撲文化」や「飲む村、のむら」、ミルクとシルク等の文化を守り、継承していくことで、地域への誇りや愛着を育みます。

3-1 のむらブランドの継承と情報発信の強化

① 「相撲文化」のPR強化等

- ・イベント時に乙亥ノボリを積極的に活用し、空地を活用した土俵を整備するなど、相撲文化を意識したまちなみ整備に取り組みます。

【WSでの主な意見】

- 相撲のまちをイメージさせるまちなみの形成
- 小・中・高にある土俵を活用する
- 相撲合宿の受入れ 等

② 「飲む村、のむら」の継承

- ・所有者の協力を前提とした被災した酒蔵の利用・活用や、飲食店の誘致など、「飲む村、のむら」の継承と更なる発展をめざした取組みを検討します。

【WSでの主な意見】

- 野村チロリン村構想（ちょい飲みできる店の集合体）
- 飲み屋の復活が必要
- メガジョッキポイント制度等の新たな試み
- 酒とスイーツの組合せによる商品開発で幅広い人をターゲットにする 等

	主な役割（案）
住民、地域等	・文化への理解、イベント等の企画や積極的な参加 ・自ら「飲む村、のむら」の実践
西予市	・空地等を活用したスポット整備
国、県	

3-2 のむらの文化を伝える仕組みの構築

- ・地域に伝わる料理を始めとする食文化を若い世代に伝える機会の創出に努め、世代間の交流につなげていきます。
- ・あらゆる世代の学びの場（学習塾や地域塾等）の整備に努め、学力向上だけでなく、地域の理解を促す場とするとともに、多様な年代の交流の場としての活用を促します

【WSでの主な意見】

- 地域の台所、食堂となる施設の整備
- 若い人が野村の食文化に触れるイベントの開催
- 幅広い年代の人が集まることで、互いに必要とされる存在になる 等

	主な役割（案）
住民、地域等	・文化への理解、イベント等の企画や積極的な参加
西予市	・地域の台所、食堂となる場の整備可能性の検討
国、県	

3-3 のむらならではの魅力を活かし来訪者を呼び込む

① 野村の魅力のPR

- ・相撲（乙亥会館）や酒、ほわいとファーム等、野村の特徴的な資源があることを強く情報発信し、地域外の方の興味・関心を促すよう努めます。

② 新たな魅力の創出

- ・既存の施設の再編や資源の組合せにより、新たな魅力となるイベント等の創出を検討します。

【WSでの主な意見】

- 手すき和紙や織物等の体験ができる機会の創出、PR強化
- シルク博物館とほわいとファーム、肱川を組み合わせ、織姫と彦星、天の川を連想させるストーリーを企画する（七夕イベント、防災も含めたイベント）
- 行きたくなるような魅力を考案する
- いつ来ても楽しめる特産品やイベント等を充実させる 等

	主な役割（案）
住民、地域等	・住民一人ひとりが野村の広報担当との意識を持つ ・イベント等の企画、積極的な参加
西予市	・野村町内・市内・県内・全国への効果的なPR
国、県	

③ 宿泊施設等の整備

- ・維持管理等も踏まえつつ、空家等を活用した、ゲストハウスや宿泊施設の整備を検討します。

【WSでの主な意見】

- 宿泊した人に商店街で買い物や食事をしてもらう 等

	主な役割（案）
住民、地域等	・民間資本を活用した宿泊施設等の整備検討
西予市	・空家等を活用した宿泊施設等の整備検討
国、県	

(4) 地域で支え合い、市民一人ひとりが活躍するまちを創る

- ・生活の場として選ばれる「野村」となるよう、市民一人ひとりがまちづくりの主役として活躍し、地域で支え合う体制づくりに努め、住みよいまちをめざします。

4-1 のむらの生活、文化を守るための移動手段の確保

① 地域で支える公共交通のあり方の検討

- ・生活（買物や通勤・通学、遊び等）において、必要な時に、必要な交通手段が確保できるよう、地域で運行するバスなど、地域の公共交通のあり方を検討します。
- ・地域住民一人ひとりが、公共交通機関を利用するメリット等を理解し、積極的な利用に努めます。

【WSでの主な意見】

- 地域で運営する公共交通の仕組みの検討
- 「飲む村、のむら」を支えるための夜間快速バスの導入 等

② 地域による買物支援等の取組

- ・高齢者等の移動が困難な住民に対しては、移動販売や買い物代行サービス等の支援策の充実に努めます。

	主な役割（案）
住民、地域等	・公共交通の積極的な利用 ・地域の支え合いの取組等への参画
西予市	・公共交通のあり方の検討、支援
国、県	・公共交通のあり方の検討、支援

4-2 若者等の定住を促すための条件整備

① 雇用の場の確保

- ・若者の定住等のためには、安心して仕事ができることが重要であることから、企業誘致や新たな仕事づくり等による安定した就労の場の確保に取り組めます。

【WSでの主な意見】

- 農業と商業の組み合わせによる地域ブランドの創出
- 若い人の起業等に対する支援策の充実
- 復興事業等により人・仕事が集まっている現状から、復興後においても人・仕事が安定して確保できるための生業（なりわい）の創出 等

② 住みやすく、魅力的なまちづくり

- ・町全体のバリアフリー化や統一したまちなみの形成を進めるなど、あらゆる世代が住みやすいまちの実現をめざします。

【WSでの主な意見】

- 施設だけでなく、町全体でバリアフリー化に取り組む
- のむらのカラーを決めるなど地区ごとのまちなみ統一等の取組 等

	主な役割（案）
住民、地域等	・自らの起業 ・バリアフリー化やまちなみ形成等への協力
西予市	・企業誘致等推進 ・各種の支援制度の充実
国、県	

5. 計画の推進に向けて

(1) 協働（総働）による推進

- ・本計画は、野村の理想の姿を検討して整理したものであり、全てをすぐに実現できるものではありません。
- ・市民一人ひとりが計画の推進の担い手であるとの認識を深め、市をはじめとした行政がその実現に向けた支援を図るなど、適切な役割分担で計画の推進を図ります。
- ・また、野村地区には、まちづくり等の積極的な団体があることから、各種団体等との連携を含めて、計画の実現をめざしていきます。

(2) 費用負担に配慮した施設整備

- ・各種の施設整備にあたっては、全てを行政だけで行うのではなく、費用対効果や将来の維持管理費等も踏まえつつ、民間資本の活用も含めて実現可能性を検討します。

(3) 継続した話し合いの場の確保

- ・計画の進捗状況の確認やより具体的な取組み方法、役割分担等に関して、引き続き、住民と各種団体、行政等の話し合いの場を設け、計画の実現に努めます。

(1) のむら復興まちづくりデザインワークショップの開催経緯

	開催日	主なテーマ	出席者
第1回 WS	令和元年 5月24日(金)	○開催主旨 ○野村高校の生徒が想う復興まちづくり提案の発表 ○グループワーク ・野村での思い出、残したいもの ・野村での過ごし方 ○グループワークの発表	23名
第2回 WS	令和元年 6月24日(月)	○第1回の振り返り ○グループワーク テーマ①：肱川(宇和川)とその周辺の整備・活用 テーマ②：商店街の活性化 テーマ③：野村の文化の継承と観光 テーマ④：日常生活サービスの維持・更新 ○グループワークの発表	30名
第3回 WS	令和元年 7月23日(火)	○第1回及び第2回の振り返り ○事例紹介 ○グループワーク テーマ 肱川(宇和川)とその周辺の整備・活用 ○グループワークの発表 ○ポイントシールの貼り付け	21名
第4回 WS	令和元年 8月22日(木)	○第3回の振り返り ○グループワーク テーマ①：肱川(宇和川)と川沿いの空間整備・利用案 テーマ②：商店街の活性化と野村の文化継承 ○グループワークの発表	29名
第5回 WS	令和元年 9月25日(水)	○第4回の振り返り ○災害時の避難について(平成30年7月豪雨災害時の避難の状況) ○グループワーク テーマ①：肱川(宇和川)と川沿いの空間整備・利用案 テーマ②：日常生活サービスの維持・更新 ○グループワークの発表	24名
第6回 WS	令和元年 10月24日(金)	○第5回の振り返り ○のむら復興まちづくり計画について ○グループワーク テーマ①：のむら復興まちづくり計画の修正・追加 テーマ②：各主体が行うこと・行いたいこと ○グループワークの発表	21名

(2) のむら復興まちづくりデザインワークショップ参加者（第1回～第6回）

所属	役職	氏名	所属	役職	氏名
野村自治振興協議会	会長	大塚 晶司			市成 和代
NPO 法人 シルミルのむら	理事長	熊谷 琢磨			清家 真理子
野村地区専務区長会	会長	大塚 俊次			大塚 耕司
野村青年団	団長	古窪 優太	野村地域自治振興協議会		高岡 伸次
西予市商工会野村支部	支部長	兵頭 俊彦	西予市社会福祉協議会		篠藤 光代
西予市商工会青年部 野村支部	支部長	脇本 尚悟	西予市社会福祉協議会		水口 辰芳
西予市商工会女性部 野村支部	支部長	谷本 寿子	西予市商工会		佐藤 豊
野村町商業協同組合	理事長	谷本 英樹	西予市商工会・野村の未来を守る会		岡澤 志朗
西予市観光協会野村支部	支部長	米田 直	西予市議会	副議長	小玉 忠重
西予市PTA連合会 野村支部	支部長	大塚 洋平	西予市議会	議員	井関 陽一
野村地区愛護班連絡協議会	会長	兵頭 智	西予市議会	議員	兵頭 学
野村地域婦人会	会長	渡邊 美恵子	広島工業大学		岡田 直樹
野村地区老人クラブ	会長	宇都宮 喜久雄	NPO 法人 シルミルのむら	副理事長	山口 聡子
西予市スポーツ協会 野村分会	分会長	大森 博			古賀 テル子
新町	区長	鈴木 和志			稲葉 恵子
本町一丁目	区長	井関 敏広			西森 春賀
本町二丁目	区長	辰巳 克彦			清水 智子
本町三丁目	区長	宇都宮 司朗	ボランティアあさざり		井関 光男
つつじ団地	区長	山本 裕一	特定非営利活動法人 パルシック		シーバース 玲名
石久保	区長	山田 信二	愛媛銀行野村支店	支店長	平松 昌幸
下氏宮	区長	和氣 義輝	愛媛信用金庫野村支店	支店長	寺川 茂樹
三島町	区長	小玉 恵二			池田 忠幸
野村高校	2年	三瀬 凌			池田 幸一
野村高校	3年	河野 克海			酒井 シマコ
野村高校	3年	高橋 良太			
野村高校	3年	井関 海斗			
野村高校	3年	金子 笑美			

※所属、役職については、ワークショップ開催当時のものです。

(順不同、敬称略)

(3) のむら復興まちづくりデザインワークショップ支援者

氏名	役職	備考
松村 暢彦	愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 教授	
羽鳥 剛史	愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 准教授	
渡邊 敬逸	愛媛大学 社会共創学部 環境デザイン学科 准教授	
萩原 拓也	東京大学 大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 復興デザイン研究体・特任助教	

大学	学科	氏名	学年	大学	学科	氏名	学年
東京大学		植田 瑞貴		愛媛大学	環境デザイン学科	藤本 脩平	2年
愛媛大学	環境デザイン学科	和田 直也	4年	愛媛大学	環境デザイン学科	前田 桂史	2年
愛媛大学	環境デザイン学科	加藤 志歩	3年	愛媛大学	環境デザイン学科	柘田 実沙	2年
愛媛大学	環境デザイン学科	古川 友香	3年	愛媛大学	環境デザイン学科	安倍 ひより	1年
愛媛大学	環境デザイン学科	米澤 友梨子	3年	愛媛大学	環境デザイン学科	片岡 真奈	1年
愛媛大学	環境デザイン学科	秋山 陽菜	2年	愛媛大学	環境デザイン学科	嘉藤 嵩	1年
愛媛大学	環境デザイン学科	宇和川 実玖	2年	愛媛大学	環境デザイン学科	濱田 優唯	1年
愛媛大学	環境デザイン学科	柿坂 麻衣	2年	愛媛大学	環境デザイン学科	増田 杏	1年
愛媛大学	環境デザイン学科	亀田 綾香	2年	愛媛大学	環境デザイン学科	三根生 ひなた	1年
愛媛大学	環境デザイン学科	坂口 柊矢	2年	愛媛大学	環境デザイン学科	渡邊 和古	1年
愛媛大学	環境デザイン学科	林 亜里沙	2年				

(順不同、敬称略)

